

## 5. おわりに

今年度の外部評価は、第2次伊賀市総合計画第2次再生計画に掲げた取り組みの最終年度の評価にあたり、全施策を対象とし総仕上げの評価として実施した。

まず、今年度実施した本審議会の外部評価の手法について、回顧しておく。

過去3年間の外部評価では、第2次再生計画の全47施策から施策をピックアップし、分科会に分かれて評価を行った後、審議会全体として評価の取りまとめを行うという手法をとってきた。評価にあたっては、「施策評価シート」、「事務事業評価シート」に加え、事業に関する詳細な資料を読み解き、各部局に対するヒアリングを実施するなど、実態を把握したうえで評価に繋げてきたが、次年度の取り組みに反映させるには評価結果が出るのが遅いといった課題があった。そのような中、今年度は評価のタイミングをこれまでより早めるとともに、これまでの評価手法を改め、第2次再生計画の総まとめの評価として、客観的な数値をベースに、目標が達成できているもの、達成できていないものについて適切な分析（内部評価）がなされているかについて、「外部評価シート」をもとに総合評価を行った。評価手法については、審議の過程で各委員より出された意見を踏まえ、更なる改善を図るべく今後の検討課題としたい。

次に、外部評価において付された本審議会委員の意見をもとに、各施策担当部局による自己評価に対していくつか付言しておく。

総論として、2020（令和2）年度の成果指標の進展度については、コロナ禍の影響により指標が達成できなかった施策も多く見られた一方で、代替案について検討し取り組んでいる施策も見られた。今後もアフターコロナ、ウィズコロナを見据えた施策の取り組みに期待したい。また、成果指標の進展度の捉え方については多くの委員より指摘があったので、より分かりやすい視点で進捗が計れるよう改善を望む。

2020（令和2）年度の市民まちづくりアンケート調査結果については、満足度、参画度について、総じてこれまでよりも高い結果であった。ただし、昨年度はアンケート手法の変更もあり、回答者の年齢層にもこれまでとは異なる傾向が見られた。そのため、これまでのアンケート結果と比較する際に課題があると委員からも指摘があったので、今後の検討課題としていただきたい。

伊賀市総合計画審議会  
会長 岩崎 恭彦